

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和5年11月15日（水）

### 2 確認箇所

3号機タービン建屋海側

### 3 確認項目

3号機の建屋外壁貫通部（3号取水電源ケーブルダクト）止水の状況

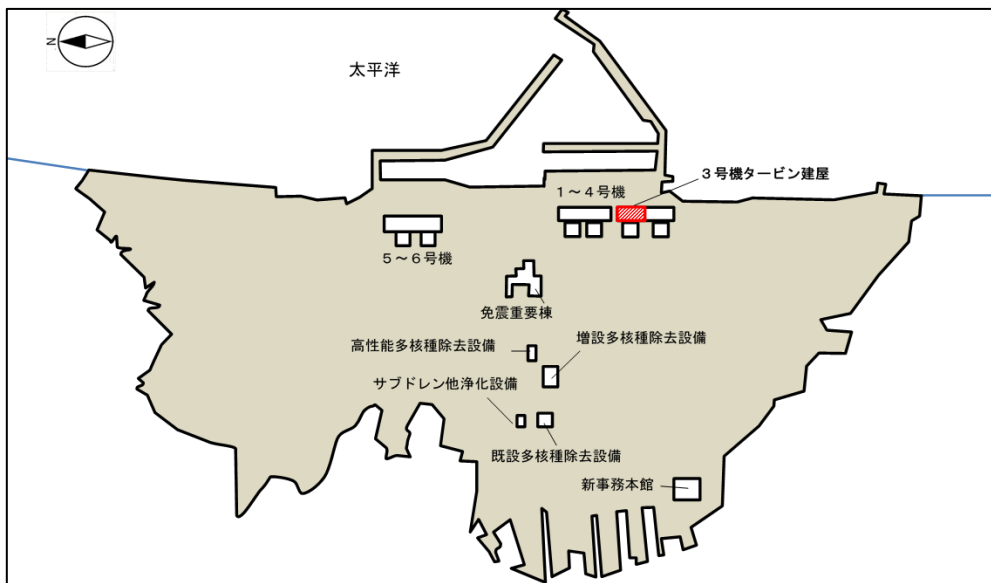
### 4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所において、山側から海側に流れている地下水や破損した建屋から入る雨水などが、原子炉建屋等に流れ込み、建屋内等に溜まっている放射性物質を含む水と混ざることなどで汚染水は増加する。従って、東京電力は、汚染源を「取り除く」、汚染源に水を「近づけない」、汚染水を「漏らさない」の3つの基本方針にそって、地下水を安定的に制御するための、重層的な汚染水対策を進めている。

汚染源に水を「近づけない」対策の一環として、地下水等の流入量が約40m<sup>3</sup>/日（2022年度4月～11月：2021年度は約60m<sup>3</sup>/日）と最も多い3号機の深部（T.P. + 2m以深）における建屋外壁貫通部を対象に調査を実施している。

その一環として、東京電力は、昨年、3号取水電源ケーブルダクトの建屋接続部ピット部を地上より削孔し内部を確認したところ、建屋外壁貫通部のケーブルより深部に若干のたまり水が確認されたため、抜き取り後、地下水の流入は確認されなかったが、降雨後再度たまり水が確認されたとしている。そのため、現在、3号取水電源ケーブルダクトの止水工事が実施されているので、その状況を確認した。（図1）

- ・3号取水電源ケーブルダクトを通じて流入する雨水等の止水のため、コンクリートを充填するための穴（約3m×20cm、ケーブルダクトに垂直に削孔）をボーリング機械により削孔していた。（写真1）
- ・東京電力によると、今後、内部調査で確認されたたまり水を回収、その後、削孔した穴からコンクリートを充填することとしており、年内に工事を完了する予定とのこと。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
止水工事実施箇所状況



(写真1-2)  
ボーリング機械による削孔の状況①



(写真1-3)

ボーリング機械による削孔の状況②

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。